

分類	主な意見	対応
都心の移動実態	人にやさしい歩きやすいまちをつくろうという方向性と、現状がその方向になっていない（自動車の利用割合が高い）ということを考えなければならない。	過度な自動車利用を抑制しながら、自転車や歩行者などのミクロな交通に配慮した取組みを進めていく。
	休日も含めて賑わいが減っているのではないか。	地域間の流動についてパーソントリップ調査の追加分析を行い、参考資料①「地域間の流出入状況について」を配布。
	区別にどこからどこへ行っているのかの分析が必要ではないか。	
阪堺線の取組み	阪堺線のような取組みを都心交通の他の側面にも波及させていくことが重要ではないか。	阪堺線の取組みとその効果について、より分かりやすく整理を行っていく。参考として、参考資料②「阪堺線活性化推進懇話会資料（抜粋）」を配布。
	成果を見えるようにすることが波及させていくポイントではないか。	
都心交通	都心の活性化と自転車の関連について考えていく必要がある。	公共交通による面的なネットワークの形成とあわせ、自転車や歩行者などミクロな交通に配慮した取組みを進めていく。
	点ではなく面として賑わいが広がる方法を考える必要がある。	
	分析から見えてきたことなど、考え方の流れを整理したほうがいいのではないか。	これまでの分析から見えてきた都心の現状や課題、方向性の整理を行い、資料③「都心交通の方向性について」を配布。
	交通体系のあり方の中で、東西交通の候補となる道路の位置付けと、通りがどうあるべきかを議論する必要がある。 東西交通軸は数値だけではなく、定性的な話も踏まえて検討してほしい。	今回の会議で提示している資料②「東西交通軸の事業性検討について」や次回会議で提示する資料等を基にご議論いただきたい。